

マラソンメダリストの有森裕子さんや世界陸上マラソン日本代表の 小山直城選手を、中高生が取材！東京2025世界陸上の魅力を発信



東京2025世界陸上財団は、東京都（「中高生Webサイト（仮称）」）の取組と連携し、中高生による東京2025世界陸上関連の取材を実施しました。

取材に参加したのは、中高生12名。彼らは、国立競技場で行われた第109回日本陸上競技選手権大会、東京都庁で開催中の「東京2025世界陸上ワールドアスレティックス・ミュージアム（MOWA）」を訪れ、有森裕子さんや小山直城選手らに直接インタビューを行い、東京2025世界陸上の魅力を探りました。

この記事では、中高生が東京2025世界陸上の見てもらいたいポイントや準備の裏側を取材した様子をお届けします。

<取材参加メンバー>



○国立競技場（2025年7月5日）



○東京都庁（2025年7月6日）

りっせん記者（中学3年生）、オイヤン記者
（中学3年生）、こうしん記者（中学3年生）、ま
さき記者（中学2年生）、しずな記者（高校2
年生）、のんのん記者（高校2年生）

そうや記者（高校1年生）、りさ記者（高校2
年生）、ほだか記者（中学1年生）、あやね記者
（高校3年生）、なつき記者（中学3年生）、た
かけん記者（高校2年生）

○東京2025世界陸上のスポンサーである「朝日新聞」から、元朝日新聞記者の芳垣文子さんに参加して

もらい、中高生へ「取材の心得」を伝授していただきました。

① ^{せかいりくじょう}世界陸上はトップ・オブ・トップの^{たたか}戦い

マラソンメダリスト ^{ありもり ゆうこ}有森 裕子さん

② ^{じこくかいさい}自国開催のアドバンテージを^い活かした^{じゅんび}準備をしたい

マラソン ^{こ やまなおきせんしゅ}小山直城選手

③ ^{りくじょう}陸上に関心がない人でも^{かんしん}楽しめる^{ひと}工夫^{たの}がある^{くふう}

^{モワ}MOWA クリス・ターナー ヘリテージディレクター

④ ^{とうきょう}東京2025^{せかいりくじょう}世界陸上のテーマは、「^{ゆめ}こどもに^{とど}夢を^{たいかい}届ける大会」

^{とうきょう}東京2025^{せかいりくじょうざいだん}世界陸上財団

世界陸上はトップ・オブ・トップの戦い マラソンメダリスト 有森 裕子さん



日本陸上競技選手権大会が開催されている国立競技場に伺い、有森裕子さんにインタビューを実施しました。有森さんは、1991年の世界陸上東京大会などに出場されており、日本陸上競技連盟の会長に就任した今年、再び東京で世界陸上が開催されることに対する思いを語りました。

りっせん記者：1991年の世界陸上東京大会出場時の思いを聞かせてください。

有森さん：1991年の世界陸上は私にとって初の日本代表戦でした。世界から集まった選手たちは終わった後に握手やハグをして自分が負けても勝った選手に“おめでとう”を言っていました。世界で戦う選手は敵というより同志。ライバルではあってもスポーツを通して自分を前進させてくれる、そういう存在なんだと教えてもらった大会であるとともに、1つの競技で競うことを通じて人間として大事な繋がりができる、その大切さを教わった大会でした。

オイヤン記者：世界陸上は陸上選手にとってどんな大会だと思いますか？

有森さん：世界陸上は記録によって出場できる枠が決まっているので、出場できない国もある。まさ

に世界のトップ・オブ・トップの戦いで、本当の意味で陸上の世界一を決める大会です。

しずな記者：アスリートとして、陸上競技のどういう部分に魅力を感じていますか？

有森さん：私はスポーツが生きることにもたらすエネルギーに興味がありました。高校から陸上部に入って一生懸命競技を頑張る中で、自分自身がどんどん変わっていきました。陸上というものが生きる力を促してくれると実感しました。

のんのん記者：その魅力を踏まえて中高生世代にはどんなところに注目して観戦してほしいですか？

有森さん：シンプルに手と足、体全体を使ってそれを極めるとこんなことができるんだというのを見てほしいですね。こんなに速く走れるんだ、こんなに重いものをあんなに遠くに飛ばせるんだ、こんなに高く跳ぶんだという。人間の体がこれだけの可能性を持っているところを観てください。

有森さんは現役引退後、日本陸上競技連盟の役員になりました。マラソンだけではなくトラックやフィールド競技も観るようになり、改めてさまざまな競技のおもしろさや身体の可能性に気づきました。多くの人にも関心を持ってもらいたい、と語ります。

陸上界のトップを走ってきた有森さんの言葉一つ一つには説得力があり、ご自身のパワフルなエネルギーに中高生は力をもらっていました。

また、インタビューを終えた中高生は、世界陸上においても使われる通常は入れない国立競技場のバックヤードを見学しました。記者が記事を書く「プレスルーム」、選手が取材を受ける「ミックスゾーン」、

「^{きしゃかいけんじょう}記者会見場」および「^{ひかえしつ}カメラマンの控室」、^{せんしゅ}「選手の招集場所」、選手が^{きょうぎまえ}競技前の^{じゅんび}準備を^{おこな}行う「ウォームアップルーム」を見学し、メディア取材の様子や^{きょうぎぜんご}競技前後の選手を目の前で観ることができました。

そして、最後に実際に^{きょうぎ}競技を^{かんらんせき}観覧席で^{かんせん}観戦。このときはトラックで^{じょし}女子100mハードル、フィールドで^{だん}男子棒高跳が行われており、選手や来場者の^{ねつ}熱を^{はだ}肌で^{かん}感じることができました。



じこくかいさい せかいりくじょう じゅんび
自国開催のアドバンテージを活かし、世界陸上への準備をしたい

こやま なおきせんしゅ
マラソン 小山 直城選手



とうきょう せかいりくじょう だんし しゅつじょう けつてい こやま なおきせんしゅ おこな
東京2025世界陸上の男子マラソンに出場が決定した小山直城選手にインタビューを行いました。

こやま せんしゅ せかいりくじょう い き ご ちゅうこうせい
小山選手に世界陸上への意気込みと中高生へのメッセージを聞きました。

あやね 記 者：(パリオリンピックにも出場した小山選手の経験を踏まえ、)パリではどんなことが大変で
したか？それをふまえて今回の自国開催の世界陸上の目標や意気込みを教えてください。

こやま 選 手：パリまで飛行機で大体13時間の移動時間がある、時差もあって大変だったなという印象が
あります。今回は9月中旬に世界陸上が開催されるということで、気温が高く湿度もあります。でもこ
の環境を知っているのは我々日本人選手だけ。そういう意味では多少有利かなと思っています。日本開催
なので皆さんが応援に来てくれると嬉しいです。たくさんの応援を力に変えて最後まで元気な姿でゴ
ールできるように頑張りたいです。

たかけん 記 者：自分の走りのここを見て欲しいなというポイントありましたら教えてください。

小山選手：レース戦略の組み立てが得意な点ですので、走る位置取りやコース取りを見てもらいたいです。

たかけん記者：どんなレースの組み立てを考えていますか？

小山選手：気温が高くてハイペースにならないと予想してます。大きい集団にしっかり最後まで付いて
いって、ラストは10キロぐらいからどんどんペースが上がっていくと思うので、そこでしっかり対応
できるような準備をしていきたいと思います。

そうや記者：陸上競技を続ける上で、どのようなことをモチベーションにしてきましたか？中高生の頃、
試合に出れないこともあったかと思いますが、どういう思いで自分を奮い立たせていましたか？

小山選手：まず、陸上が好きだったというのがありました。結果が出なかったり、苦しいことやつらい
こともありますが、原点である“走るのが好き”ということを思い出して、頑張れたのかなと思っています。
中学生の頃から自分で考えて、自分の好きなことを突き詰めるということを大事にしてきました。
自分の意志を持って、やると決めたことをやっていくことは本当に大切だと思っています。

そうや記者：高校3年の時に初めて全国大会の代表になって、走られたと伺いましたが、その時にどの
ような思いを持たれましたでしょうか。そして緊張していたと思いますが、その緊張を力に変えるた
めにどのようなことを行いましたか。

小山選手：自分自身にとって初めての全国大会でした。もちろん緊張もしましたが、逆に初めてとい
うことで無我夢中で、緊張があった中でもしっかり走れました。緊張は仕方ないと思っていつも走り
ます。

あやね記者：大きな大会だと緊張すると思いますが、どうのことをしていますか？

小山選手：失敗する時のことを考えると緊張してしまうと最近思うことがあって、成功したイメージ、勝つイメージを持つように意識しています。

ほだか記者：マラソン選手になると決めたのはいつだったのでしょうか。

小山選手：中高生の頃は陸上を仕事にできるとは全く考えていなかったですね。だから陸上がダメでも勉強の方でいけるように両方とも頑張るように意識していました。でも、高校生の頃に大学から勧誘をしていただけたので、そのタイミングで次のステージでもやっていこうかなというふうに考えはじめました。

りさ記者：高校生だと今から仕事を決めておかないと大学も決まらなと焦るところもあるんですけど、部活も勉強も両立して、自分の夢であるマラソン選手になれたことを聞いて、そこまで焦りすぎなくていいなと思いました。

インタビューを通じて、実際に世界の大舞台で活躍しているアスリートの方でも、中高時代からこれまで目の前のことを積み重ねたことを知れたのが大きく響いたようでした。



りくじょう かんしん ひと たの くふう
陸上に関心がない人でも楽しめる工夫がある

モワ クリス・ターナー ヘリテージディレクター



とうきょうとちやうだいいちほんちやうしや かいきたてんぼうしつ かいきたがわてんじ
東京都庁第一本庁舎45階北展望室と 2階北側展示スペースでのMOWAの展示を見学し、ディレクターの
クリス・ターナーさんにインタビューを おこな 行いました。

クリスさんはスポーツジャーナリストかつ れきしがくしや 歴史学者で、ダブリューエー W A *では せいかいかっこく 世界各国で開催されている モワ MOWA
の きかく 企画を かんが 考えている やくしよく 役職を 2002 年から にな 担っています。2023年の ねん ブダペスト大会での たいかい MOWAの開催や、
オンライン 3D ミュージアムにも ちから 力を入れて きかく 企画されてきました。

ダブリューエー * W A : せかいりくじょう ワールドアスレティックス。世界陸上の しゅさいしや 主催者。

そや記者 : モワ MOWAは各国で開催しているということですが、どのような おも 思いで てんじ 展示されていますか？

クリスさん : わたし 私たちの持っている も 貴重な きちやう コレクションを、スポーツに かんしん 関心のない ひと 人にも み 観てもらえるよ
う、さまざまな くふう 工夫をしています。例えば、た 展示スペースには せんしゅ 選手から きぞう 寄贈された だんじょぼうたかとび シューズや男女棒高跳・
はしりたかとび 走高跳の世界記録の せかいきろく 実寸展示、じつすんてんじ ウサイン・ボルト選手らの せんしゅ 等身大パネルなど み 観てふれて りくじょう 陸上のことが つた 伝
わる てんじ 展示をしています。

なつき記者：東京都庁で展示を開催したのはなぜですか？

クリスさん：東京都庁には観光客向けのスポットがあります。例えばお土産屋さんや展望室とか。これは世界中の人を引きつけることができますと思います。展望台にはとてもたくさんの方が訪れ、全員が必ずここを通るんです。そうすると、(MOWA開催期間が) 11週間あるわけですから、どれくらいの方がここを訪れるか、そこに魅力を感じました。

ほだか記者：MOWAは陸上に興味を持っていない人にも陸上に触れる機会を作ることを目的にしています、そのため、身近なところで工夫してやっているというのを聞いて、親近感がわきました。

あやね記者：あまり陸上に興味がない人でも面白く伝えるということに注力されていたのが印象的でした。選手がメダルを取りましただけでなく、メッセージや歴史、選手のストーリーがあって、いろいろなアプローチでわかりやすく説明しようと努力されているのが伝わりました。

こども記者が取材したのは7月6日で、MOWAの公式オープニングに先立ち、関係者限定のオープニングセレモニーが開催された日でした。セレモニーは、展示会場の1つである東京都庁第一本庁舎2階北側展示スペースで行われました。東京都の小池百合子知事、W A カウンシルメンバー・

日本陸上競技連盟の有森裕子会長、東京2025世界陸上財団の尾縣貢会長のほか、小山直城選手、レジェンド選手である谷口浩美氏、野口みずき氏が出席され、室伏由佳氏が司会を務めました。

今回の展示テーマである「東京1991-2025」を象徴するようにオープニングセレモニーでも

1991年の東京大会の映像が流れました。会場には等身大パネルや選手からのシューズなどの寄贈コレクションが展示されています。9月21日まで見られますので、ぜひお越しになってみてはいかがでしょうか。展示期間は[こちら](#)をチェックください。



とうきょう せかいりくじょう
東京2025世界陸上のテーマは、「こどもに夢を届ける大会」

とうきょう せかいりくじょうざいだん
(東京2025世界陸上財団)



しゅざい つう
取材を通じ

て、世界陸上を多くの人に見てもらいたいという熱意を感じてきましたが、実は今回の世界陸上は「こどもに夢を届ける大会」がテーマとなっていて、大会を準備する東京2025世界陸上財団の職員へのインタビューでは、こんなエピソードを聞いていました。

りっせん記者：今大会のテーマはこどもに夢を届ける大会だそうです。そこに込めた思いと、取組の内容を教えてください。

そうむきかくしつ せきかく しやうじな おきたんとうかちやう みらい にな も ちから かんどう せかい
総務企画室企画 庄司直樹担当課長：未来を担うこどもたちにスポーツが持っている力や感動、世界に挑戦する素晴らしさを伝えていきたいという強い思いがあります。こどもたちの世界陸上への観戦招待や、都内の小学校にリレー用バトンを寄贈するバトンプロジェクトを企画しています。

こうしん記者：国立競技場の会場を活かして、選手が力を発揮するための工夫と観客が盛り上がる工夫について、見どころを教えてください。

きやうぎやうんえいしつ きやうぎやうんえい たなだしやうへいかちやう きやうぎについ にちかん まいにちかなら けつしやうせん い しよにち きん
競技運営室競技運営 棚田修平課長：競技日程の9日間、毎日必ず決勝戦を入れており、初日から金メダリストの誕生が見られるプログラムにしています。観客の皆さんに毎日見に来てもらい、フルスタジア

ムで、選手^{せんしゅ}の皆^{みな}さんに最高^{さいこう}のパフォーマンスをしてもらいたいです。

のんのん記者^{きしや}：マラソン競技^{きょうぎ}の注^{しゅ}目^{もく}ポイント^{おし}を教えてください。

競技運営室^{きょうぎうんえいしつ}ロード競技^{きょうぎ} 柴田光^{しばたひかる}担当課長^{とうかちやう}：マラソン競技^{きょうぎ}の見^みどころは、35km地点^{ちてんす}過ぎから各選手^{かくせんしゅ}が駆けひきをすることです。今大会^{こんたいかい}でいえば 35km地点^{ちてん}は神保町^{じんぼうちやう}で、40km手前^{てまえ}の急^{きゆう}な上^{のぼ}り坂^{ざか}が勝負^{しょうぶ}どころとなりそうです。選手^{せんしゅ}が前^{まえ}に出^でたり下^さがったりの激^{げき}しい戦^{たたか}いがあるので、そこに注^{しゅ}目^{もく}してみてください。

ほかにも中高生^{ちゆうこうせい}からは、仕事^{しごと}の内容^{ないよう}や大会^{たいかい}に向けた意気込み^{い きこみ}についての質問^{しつもん}があり、臨場感^{りんじやうかん}を感じてもらえる大会^{たいかい}を作り上げる苦勞^{くろう}や熱意^{ねつい}を、熱心^{ねっしん}に聞いていました。

こうしん記者^{きしや}：選手^{せんしゅ}だけでなく裏側^{うらがわ}で支える人^{ひと}たちも含めた全員の本気^{ほんき}さを感じました。インタビューした職員^{しよくいん}さん達^{たち}も有森^{ありもり}さんも皆^{みな}さん笑顔^{えがお}。自分^{じぶん}のやっていることを楽しみながら熱意^{ねつい}を持ってやっているのがすごくいいなと思いました。

まさき記者^{きしや}：インタビューやバックヤードツアーを経験^{けいけん}して、思^{おも}ったよりも沢山^{たくさん}の人が関わっていることがわかりました。世界陸上財団^{せかいりくじやうざいだん}の方も細^{かた}かいことまで準備^{こま}されていて、そういうのを踏^ふまえた上^{うえ}で観戦^{かんせん}するとさらにおもしろい。そういうことを伝^{つた}えていかなきゃと思いました。



(編集後記)

2日間にわたって行われた取材は、12人の中高生にとって初めての経験。世界的な舞台をベースに

記事の取材ができたことは、大きな刺激となりました。

それぞれの質問への回答は世界陸上を楽しむ上で大きなヒントになります。9月の世界陸上やMOWAの

楽しみ方のガイドとして読んでもらえると嬉しいです。

「中高生Webサイト（仮称）」：中高生にとっての「都政への玄関口」となるWebサイトを東京都と

中高生とが一緒に制作する事業。制作メンバーである都内在住及び在学の中学生・高校生が、都政や

社会の動きなどについて、中高生に向けた情報発信をおこなうため、取材を実施。

（参考）「中高生Webサイト（仮称）」制作メンバー募集について（令和7年4月25日）

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/04/2025042511>

この取組は W A のKids' Athleticsと連携した取組です。

東京2025世界陸上をこどもに夢を届ける大会に



[Kids' Athletics](#)（キッズ・アスレティックス）は、ワールドアスレティックスによる、世界中の子供た

ちが陸上競技を通じて、自信と能力を伸ばし、生涯スポーツに親しむことを促す取組です。

Kids' Athletics（キッズ・アスレティックス）と連携した^{れんけい}東京^{とうきょう}2025^{せかいりくじょう}世界陸上におけるこどもの^{さんかく}参画について
の^{しやうさい}[詳細はこちら](#)をご^{さんしやう}参照ください。